

平和使節団参加者一覧

沖縄・鹿児島班



左から 笠井清純さん(町会推薦)、田邊國士さん(中学生)、本間流星さん(中学生)、小泉まりさん(団長/高校生)、三上舞蘭さん(中学生)、笹島百華さん(中学生)

広島班



左から 高桑マホさん(大学生)、大澤末祁さん(中学生)、一ノ瀬望美さん(高校生)、池島大雅さん(団長/中学生)、八木秀脩さん(中学生)

長崎班



左から 壁田悠里さん(団長/高校生)、田邊桃花さん(中学生)、立花煌也さん(中学生)、鈴木貴大さん(高校生)、森将輝さん(中学生)



派遣期間 8月8日~10日

長崎は、広島に次いで原子爆弾が投下された都市です。爆心地などが長崎原爆遺跡として国の史跡に指定され、原爆の被害を伝えています。また、原爆の投下された8月9日は、原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念する平和祈念式典を挙げています。

活動内容 青少年ピースフォーラム・平和祈念式典への参加、永井隆記念館・山里小学校・長崎原爆資料館の見学ほか

主な視察先と感想

長崎



長崎原爆資料館・平和公園(長崎市)



平和祈念式典

■今回初めて国連事務総長が出席し、核廃絶にまた一步近づいたと感じました。「長崎を最後の被爆地に」という言葉を胸に残し、同じ過ちを繰り返さないよう努力したいと思います。(立花煌也)

■平和祈念式典では、長崎市長の「体験は共有できなくても平和への思いは共有できる」という言葉が胸に残りました。だから私たちは、今戦争を見つ

め直して考えることが大切だと思います。(田邊桃花)



青少年ピースフォーラム

■青少年ピースフォーラムでは、被爆者の小峰秀孝さんの被爆体験のお話を聞きました。そのお話で学んだことを忘れずに、身近な人に伝えていきたいと思いました。(壁田悠里)

■僕は青少年ピースフォーラムで戦争や原爆の悲惨さを学びました。原爆は一瞬のうちに大勢の罪のない人から命を奪う非人道的な兵器で、あってはならない物だとわかりました。(森将輝)



長崎原爆資料館

■原爆資料館では、長崎の原爆がどのようなものであったかを熱線、爆風、放射線に分けて知ることができました。展示品を見てその時の惨状を想像するだけで、現実のことは思えず胸が痛くなりました。(鈴木貴大)



平和使節団結団式・事前研修会

派遣前の7月4日に、結団式と事前研修会を実施しました。前年度の派遣者からのメッセージ発表や、オリエンテーションを行いました。



▲集合写真



▲オリエンテーションの様子

平和使節団報告会

派遣後の8月22日に、報告会を実施しました。派遣後に団員同士で協力し合って作成した資料を基に、平和使節団に参加して学んだことや今後の抱負などを区民の皆さんに発表しました。



▲沖縄・鹿児島班の発表



▲広島班の発表

編集後記

~平和使節団広報担当から~

この記事は、広報担当となった団員が協力して作成しました。



今回の派遣では、広報原稿に収め切れないほどの多くのことを学びました。貴重な体験ができてうれしかったです。(三上舞蘭さん)



今回広報を担当して、みんなの想いを込めたものを作ることに責任や楽しさを学べて良かったです。(笹島百華さん)



普段接することのない中学生と意見を交換し記事を作ることが、とても新鮮で楽しかったです。(高桑マホさん)



広報担当になって、広島に行って学んだことを広報紙に載せることができ良かったです。(大澤末祁さん)



広報担当になったことで、自分が今回の経験を通して伝えたいことを考えることができました。今後もそれを広めたいです。(鈴木貴大さん)



レイアウトやどの写真を入れるかを自分たちで決めたので、どのように平和を伝えるかを考えることができました。(立花煌也さん)

目で見て、耳で聞いて、肌で感じた平和の大切さ 平和使節団の体験報告

戦争が終わり、73年が経ちました。区は、戦争・被爆体験者との交流や、平和式典への参列、戦跡の見学などを通じて、平和の尊さを実際に肌で感じ、その経験を多くの区民に伝えてもらうため、毎年沖縄・鹿児島、広島、長崎の各都市へ平和使節団を派遣しています。今年派遣した使節団の活動内容と団員の体験談を報告します。

問合せ 国際平和・男女平等人権課国際平和係 ☎ 5211-4165



派遣期間 7月24日～27日

沖縄は、住民を巻き込んだ大規模な地上戦が行われた場所で、戦争当時を現代に伝える史跡や施設が点在しています。鹿児島は、沖縄戦における特攻隊の出撃地であり、若くして戦地に散った隊員の手記などが残されています。



派遣期間 8月5日～7日

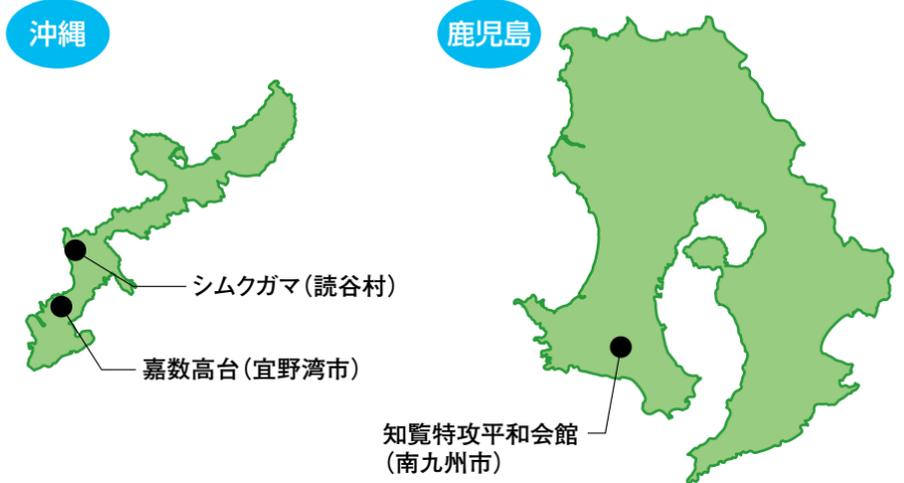
広島は、世界で初めて原子爆弾が投下された都市です。世界遺産の原爆ドームや平和記念公園は、平和を訴える場所となっています。また、原爆の投下された8月6日には、原爆死没者の霊を慰め、世界の恒久平和を祈念する平和記念式典を挙げています。

活動内容 戦争体験者の講話、嘉数高台・糸数アブチラガマ・平和の礎・ひめゆりの塔の見学、読谷村内視察(シムクガマほか)、知覧特攻平和会館の見学ほか

活動内容 ヒロシマ青少年平和の集い・平和記念式典への参加、広島平和記念資料館・原爆ドーム・大和ミュージアムの見学ほか

主な視察先と感想

主な視察先と感想



知覧特攻平和会館

■私が知覧特攻平和会館で衝撃を受けたことは、特攻兵士の「遺書」の言葉です。僅か17歳という若さで短い生涯を終えた兵士の言葉は、私に対して生と死を考えさせるものでした。(本間流星)

■特攻の方法や、特攻隊の声には出せない気持ちを知りました。十代の若い国の宝が、国のために、たくさんの思いをこらえ命を捧げ使命を果たすとい

うことに、複雑な気持ちになりました。(田邊國士)



嘉数高台

■本土決戦を前に、戦略的持久戦を強いられた沖縄地上戦の始まりの地。首里撤退までの52日間で兵力の8割を失い、その後に南部への壮絶な撤退戦となりました。野ざらしとなったトーチカが激戦をうかがわせます。(笠井清純)

■展望台から見えるきれいな景色の中にある米軍基地を見て、まだ戦争は終わっていないと思いました。この先戦

争を起こさないために、身近な人たちに体験した事を話すことから始めたいです。(笹島百華)



シムクガマ

■シムクガマに行くまでの道のりは足場が不安定でした。このガマには約1,000人もの人が避難してきたといわれ、ガマの中は、足の踏み場もなかったそうです。前が見えないほどの暗闇で恐怖を感じました。(小泉まり)

■シムクガマの避難者に、軍国主義の教育を受けておらず、命の大切さを知っていたハワイ移民帰りの住民がいたために人々が助かったという話を聞

きました。教育は大切だと思いました。(三上舞蘭)



原爆ドーム

■原爆ドームの周辺は、原爆が投下される前はとてにぎやかな町だったそうです。変わり果てたドームを見てこんな悲惨な事は二度と起こしてはいけな

■私が訪れた美しい広島とは逆に、原爆ドームは被爆当時のように生々しく原型を留めていました。今広島で知り合った友人たちと、戦争をどう伝えるか試行錯誤しています。(池島大雅)



大和ミュージアム

■戦艦というと、敵の船を攻撃する危険なものというような漠然とした悪いイメージがありましたが、それだけではなく、当時の技術の結晶だったなど、さまざまな側面を知ることができました。(一ノ瀬望美)

■太平洋戦争中に活躍した戦艦『大和』。そんな戦艦『大和』の作られた広島県呉市にある大和ミュージアム。私たちが知っている戦艦『大和』を通して戦争について考えさせられました。(八木秀脩)



平和記念式典

■8月6日の黙禱は、多くの人の思いが詰まった一分間でした。実際に体験してみるとその重みがひしひしと伝わってきました。伝承者が減少している中、私たち若い世代が先頭に立ち語り継ぐことの重要さを改めて考えさせられました。(高桑マホ)

